

令和7年度 第2回酒田市文化芸術推進審議会

◆日時：令和8年2月24日（火）午後2時

◆会場：酒田市総合文化センター412号室

1 開 会

2 市長あいさつ

3 審議会会長あいさつ

4 報告事項

(1) 令和7年度アンケート結果について

(2) 酒田市中中学校部活動の地域移行について

5 協議事項（意見交換）

(1) 令和7年度答申内容について

(2) 答申に対する令和8年度事業案（社会包摂関連）について

6 その他

7 閉 会

酒田市文化芸術推進審議会委員名簿

令和7年6月1日現在（敬称略）

氏名	役職	推薦団体等	適用（酒田市文化芸術基本条例第20条第3項）
中川 幾郎	会長	帝塚山大学名誉教授	1号委員（学識経験者）
熊倉 純子		東京藝術大学大学院教授	1号委員（学識経験者）
市原 多朗		声楽家 酒田市名誉市民	1号委員（学識経験者）
村上 幸太郎	副会長	酒田市芸術文化協会会長 公益財団法人さかた文化財団理事長	2号委員（文化芸術団体を代表する者）
田中 章夫		公益財団法人本間美術館館長	2号委員（文化芸術団体を代表する者）
小野寺 裕美		酒田市小学校長会 酒田市立松山小学校校長	3号委員（学校教育関係者）
長澤 信樹		酒田地区私立幼稚園・認定こども園連合会会長 学校法人明照学園理事長・浄徳幼稚園園長	3号委員（学校教育関係者）
加藤 聡		酒田商工会議所会頭 加藤総業（株）代表取締役社長	4号委員（事業者を代表する者）
齋藤 健太郎		酒田市文化芸術プロジェクト会議委員 （株）ブルー代表取締役社長	5号委員（市内に住所を有する者）
武田 和恵		一般社団法人こねる代表理事	6号委員（その他市長が必要と認める者）

【事務局】

酒田市企画部	部長	加藤 義和
酒田市企画部文化政策課	課長	大井 庄栄
	課長補佐	小松 千佳
	課長補佐兼文化財係長	池田 邦臣
	文化芸術係長	東海林 聡
	管理係長	笹原 慶
	調整主任	金 嬪娜

アンケートに関する対応について

第 1 回酒田市文化芸術推進審議会資料より

酒田市文化芸術推進計画 評価指標の現状										
基本目標	評価指標 (計画P32)	実績							目標値 R9年度	
		H29年度 (計画策定時)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		
① 無作為抽出郵送アンケート (H29年度2,000件、H30年度以降1,000件) ③ 紙アンケート ② WEBアンケート										
R3・4年度=①②:1,000部郵送の上でWEB回答可。 R5年度=②:WEBアンケートのみ実施。 R6年度=②③高齢者配慮の側面から紙面回答での回収も追加。										
1 市民文化政策 (ひとづくり) 自由で多様性を認める 心豊かな市民生活の実現	(1) 文化芸術活動※ ¹ のしやすいまちだと答える市民の割合 【計画P13 課題(1) 関連】	50.3%	50.9%	35.0%	36.7%	34.0%	37.3%	32.7%	60.0%	◆R5年度以降のアンケート結果について ①配布回収先の振り ・無作為抽出郵送アンケートを止めたR5年度から、文化芸術活動に参加、鑑賞、文化施設に行ったことがある等の指標数値が特にながっている。 ・WEBアンケートは、市広報、市公式LINEほか、公共施設内に配置した二次元バーコードを読み込んで答える方法だったため、文化施設や社会教育施設に常々来館、活動している市民が多く回答していることが推測される。 ②年齢層の振り ・R6年度の回答で、世代別で50代・60代の回答者が46.3%を占めている。若年層や高齢者の回答数が少なく、社会包摂を考慮するための調査としては不十分と言える。 ・母集団を年代等の属性別に層に分け、各層から決められた割合で無作為抽出を行う「層化抽出法」等の方法によることで、各世代がアンケート対象に均等または実際の人口構成比に応じて反映される。こうした調査方法と設問設定について再検討する必要がある。
	(2) 文化芸術活動に参加した市民の割合 【計画P13 課題(1) 関連】	27.7%	29.3%	16.2%	26.9%	26.9%	41.2%	31.1%	33.0%	
	(3) 文化芸術活動の満足度 【計画P16 課題(1) 関連】	42.1%	36.2%	25.2%	28.8%	21.8%	28.2%	31.1%	50.0%	
	(4) 文化芸術活動を鑑賞した市民の割合 【計画P13 課題(2) 関連】	36.4%	43.8%	28.8%	30.8%	41.0%	60.7%	64.0%	43.0%	
	(5) 子どもたちの文化芸術にふれる機会に対する満足度 【計画P17・19 課題(3)(6) 関連】	31.2%	29.3%	20.7%	20.2%	18.2%	30.1%	36.4%	37.0%	
(6) 文化資源※ ² について誇りをもっている市民の割合 【計画P19 課題(4) 関連】	66.3%	58.4%	53.1%	53.7%	48.1%	93.9%	95.8%	79.0%		
2 都市文化政策 (まちづくり) 誇りをもてる 酒田らしさの創造	(7) 多様な分野との連携事業数 【計画P19 課題(5) 関連】	教育関係1 観光関係1 商工関係1	福祉関係2 観光関係1	福祉関係1 教育関係1 観光関係1	福祉関係1 教育関係3 観光関係1	福祉関係1 観光関係2 教育関係1	福祉関係1 教育関係2	福祉関係1 教育関係5 商工関係1	多分野との連携 10事業	
	(8) 文化施設※ ³ に行ったことのある市民の割合 【計画P19 課題(4) 関連】	81.7%	62.2%	58.3%	67.1%	66.3%	91.1%	89.2%	90.0%	
【注釈※】										
※ ¹ 文化芸術活動とは、希望ホールでのコンサート、美術館での鑑賞、文化芸術に関する講演会・ワークショップ、映画鑑賞、伝統芸能等に参加して活動すること。										
※ ² 文化資源とは、文化施設(希望ホールなど)、文化財(山屋倉庫など)、伝統芸能、酒田市出身の芸術家、自然景観、歴史的景観、酒田の食文化(R5変更)										
※ ³ 文化施設とは、市内4施設(土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館、酒田市民会館)、5施設(総合文化センター)、6施設(公民館)										
注) 計画策定時(平成29年度)の数値については、「酒田市芸術文化振興計画(仮称)策定に伴うアンケート」(平成29年7月実施)の結果に基づくものであり、令和元年度以降の数値については、各年度に実施した市民アンケートの結果に基づくもの。										



課題1 設問に対する回答の見直し

●「文化資源に誇りを持っていますか」の設問についての変更点

▶令和4年度以前

問 16 酒田市にある文化資源について誇りを持っていますか。

※文化資源とは、酒田市美術館、希望ホール、本間美術館、土門拳記念館などの文化施設や文学、音楽、舞踏、伝統芸能をはじめとする文化芸術活動に関係するもの。

- 1 誇りをもっている 2 誇りをもっていない 3 文化資源を知らない

・目標値…79%に対して、R4の現状値…48.1%と伸び悩んでいた。

全体の内20.6%が、「文化資源を知らない」と回答したため、質問の仕方に問題があるとみて設問の見直しを実施。

▶令和 5～6 年度

問 9 酒田市の文化資源についてお尋ねします。誇りを持っている文化資源は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

- ① 文化施設(希望ホール、土門拳記念館、酒田市美術館、本間美術館、総合文化センター)
- ② 「①」以外の文化施設(文化資料館光丘文庫、松山文化伝承館、シアターOZ など)
- ③ 文化財(城輪柵跡、旧鑑屋、山居倉庫など) ④ 黒森歌舞伎や地域に伝わる伝統芸能
- ⑤ 酒田市出身の芸術家や音楽家、作家など ⑥ 鳥海山や最上川などの自然的景観
- ⑦ 日和山などの歴史的景観 ⑧ 酒田の食文化
- ⑨ その他()
- ⑩ 誇りを持っていない

・文化資源とは何を指すのかが一目でわかるように回答方法を変えてしまった結果、現状値が目標値を大幅に上回ってしまった。

▶令和 7 年度(修正)

問 9 酒田市の文化資源に誇りを持っていますか。(あてはまるもの 1 つに○)

※文化資源とは、酒田の文化施設、城輪柵跡・旧鑑屋・山居倉庫などの文化財、黒森歌舞伎や松山能などの地域に伝わる伝統芸能、酒田市出身の芸術家・音楽家・作家、鳥海山や最上川などの自然的景観、日和山などの歴史的景観、酒田の食文化などを指します。

- 1 誇りを持っている 2 誇りを持っていない 3 文化資源を知らない

課題2 配布回収先の偏り

偏りが発生しないように配慮し、下記にアンケート回収箱を設置した。

下記 URL から回答または市役所 1 階、各総合支所、希望ホール、総合文化センター、ミライニ、各コミュニティセンターに設置してあるアンケート用紙に記入し回収箱へ

<https://city-sakata.form.kintoneapp.com/public/r7-bunkageizyutukatudo>

課題3 年齢層の偏り

大学や高校にもポスターを送付し、回答への協力依頼を行った。

※今年度は、抜本的な見直しは出来なかったため、来年度は審議会委員の皆様よりご意見を伺いたい。

令和7年度 市民アンケート結果

- 調査期間：令和8年1月1日(木・祝)～1月20日(火) ●調査項目：本市における文化芸術活動に関する設問
- 調査方法：市公式LINE・X、市広報誌、各施設へのチラシ設置等で周知
- 回答方法：WEB入力による回答／アンケート用紙による回答(設置場所:市役所1階、各総合支所、希望ホール、総合文化センター、ミライニ、各コミセン)
- 回答者数：444人…WEB:354人、用紙:90人(参考:R6 594人…WEB:542人、用紙:52人)

	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90歳以上	無回答	合計
R7	21(4.7%)	27(6.1%)	42(9.5%)	70(15.8%)	86(19.4%)	111(25.0%)	80(18.0%)	6(1.4%)	0(0.0%)	1(0.2%)	444(100.0%)
R6	13(2.2%)	46(7.7%)	71(12.0%)	126(21.2%)	130(21.9%)	145(24.4%)	58(9.8%)	5(0.8%)	0(0.0%)	0(0.0%)	594(100.0%)

酒田市文化芸術推進計画の評価指標に対する現状値及び目標値(市民アンケート結果)

基本目標	評価指標	現状値								目標値
		H29	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	
市民文化政策 (ひとづくり) 自由で多様性を 認める心豊かな 市民生活の実現	文化芸術活動のしやすいまちだと答える市民の割合	50.3%	50.9%	35.0%	36.7%	34.0%	37.3%	32.7%	45.0%	60%
	文化芸術活動に参加した市民の割合	27.7%	29.3%	16.2%	26.9%	26.9%	41.2%	31.1%	38.3%	33%
	文化芸術活動の満足度	42.1%	36.2%	25.2%	28.8%	21.8%	28.2%	31.1%	37.6%	50%
	文化芸術活動を鑑賞した市民の割合	36.4%	43.8%	28.8%	30.8%	41.0%	60.7%	64.0%	64.2%	43%
	子どもたちの文化芸術に触れる機会に対する満足度	31.2%	29.3%	20.7%	20.2%	18.2%	30.1%	36.4%	36.7%	37%
都市文化政策 (まちづくり) 誇りのもてる 酒田らしさの創 造	文化資源について誇りを持っている市民の割合	66.3%	58.4%	53.1%	53.7%	48.1%	93.9%	95.8%	61.5%	79%
	文化施設(※1)に一度でも行ったことのある市民の割合(◆も含む)	81.7%	56.1%	58.3%	67.1%	66.3%	91.1%	89.2%	89.5%	90%
	◆この1年間で文化施設(※1)に行ったことのある市民の割合								42.1%	
※1 文化施設とは土門拳写真美術館、酒田市美術館、本間美術館、希望ホール、総合文化センター(文セは、H29及びR4以降対象)を指し、これまでに一度でも各施設を訪れたことのある市民の割合(5施設の平均)を求めたもの。										

○H30年度はアンケートの実施なし。

○現状値について ▶H29～R4:無作為抽出(人口構成比に比例)した市民1,000名(H29は2,000名)にアンケートを送付(2月)し、郵送及びオンライン(R3-R4)で回答

▶R5:オンラインでのみ回答 ▶R6～R7:オンライン及び回答用紙にて回答(回収率:H29=27.8%、R1=40.9%、R2=42.0%、R3=44.1%、R4=41.2%、R5～R7=回収率無)

回答の分析

①設置場所の追加

オンラインでの回答が難しい方からの回答を増やすことを目的に、コミュニティセンター及びミライニに用紙を設置。

その結果60～80代の割合が増加したと考えられる。

②文化芸術活動のしやすさ

回答者数は減少したものの、“文化・芸術団体への個別依頼の取りやめ”“文化施設以外へのアンケートの設置”などの見直しを行ったことで、普段積極的に文化芸術活動を行っていない方からの回答も得ることができ、全体的に数値が上昇している。

③文化資源への誇り

R5～R6は「文化資源」の具体例として、山居倉庫等の他、鳥海山等の自然的景観も列挙・選択できるようにしたことで、変更以前(R4)に比べて数値に大幅な変動が出たことから設問の見直しを実施。今回の数値は大幅に低下したものの、R4と比較すると他の設問同様、上昇している。

令和7年度「文化芸術活動に関するアンケート調査」(結果)

▶アンケートの目的

酒田市文化芸術推進計画の策定からおおよそ7年が経過した。計画を掲げた施策について現時点での進捗状況を把握し、評価指数や数値目標に照らしながら検討・評価を行い、今後の施策展開へ繋げるために実施。

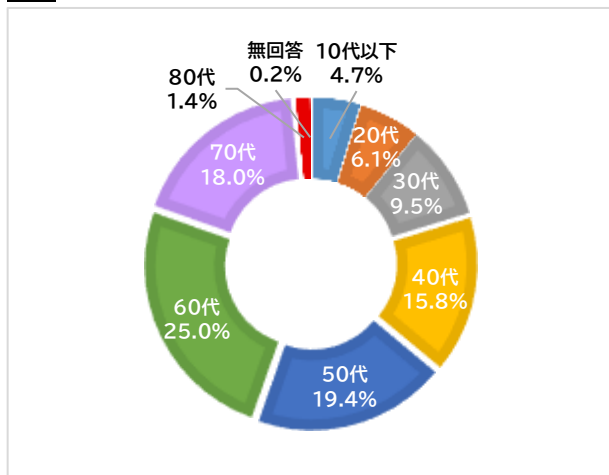
▶調査要領

- (1) 調査実施期間: 令和8年1月1日(木・祝)～1月20日(火)
- (2) 調査方法: WEB 回答(市広報誌や市公式SNS、チラシ等でお知らせ)
用紙での回答(市役所1階、各総合支所、各コミュニティセンター、希望ホール、文化センター、ミライニ、に用紙を設置)
- (3) 回答数: 444件(WEB回答:354件、用紙回答:90件)

▶調査結果

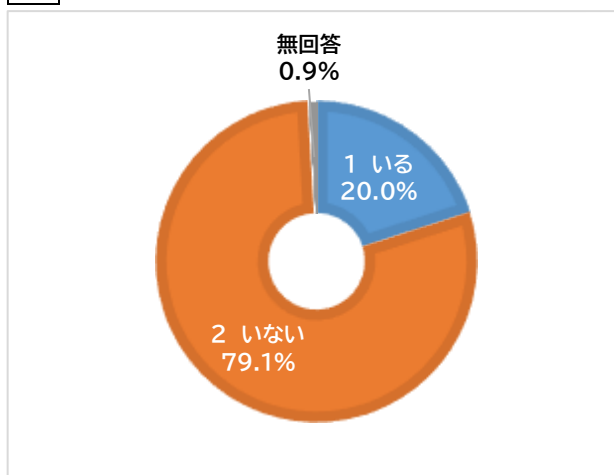
1. あなた自身のことについて

問1 回答者の年代 (N=444)

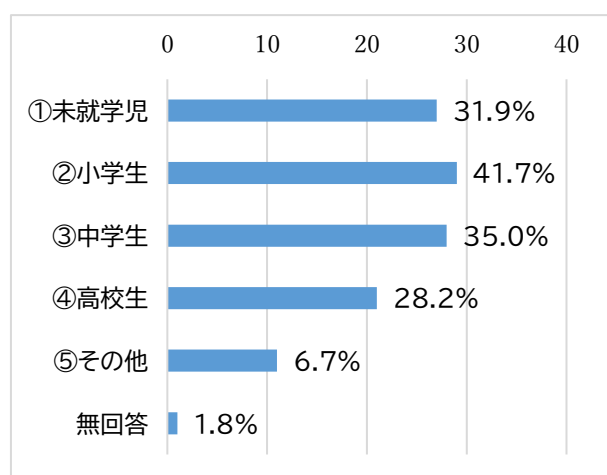


年代	人数(単位:人)	
10代以下	21	4.7%
20代	27	6.1%
30代	42	9.5%
40代	70	15.8%
50代	86	19.4%
60代	111	25.0%
70代	80	18.0%
80代	6	1.4%
90歳以上	0	0.0%
無回答	1	0.2%
合計	444	

問2 18歳以下の子どもはいるか(N=444)



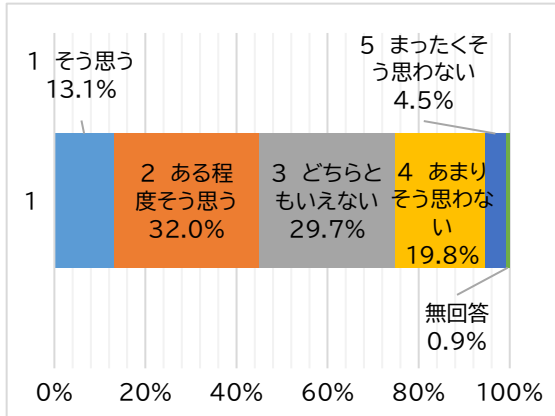
▶18歳以下の子どもの年代(複数選択)



2. 文化芸術活動について

問3 酒田市は文化芸術活動をしやすいまちだと思いますか。(N=444)

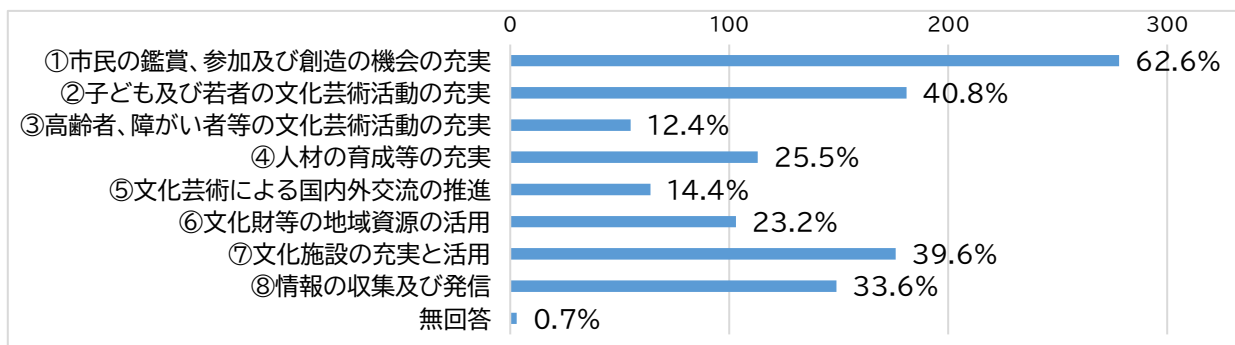
- ・無回答4人を除く440人が回答。
- ・「そう思う・ある程度そう思う」と回答した方が200人(45.1%)、「どちらともいえない」と回答した方が132人(29.7%)、「あまりそう思わない・まったくそう思わない」と回答した方が108人(24.3%)となっている。



年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	総計
1 そう思う	4	6	3	7	14	11	11	2	—	58
2 ある程度そう思う	11	8	16	18	26	31	29	3	—	142
3 どちらともいえない	5	7	14	24	24	36	20	1	1	132
4 あまりそう思わない	1	6	6	19	17	26	13	—	—	88
5 まったくそう思わない	—	—	2	2	5	7	4	—	—	20
無回答	—	—	1	—	—	—	3	—	—	4
総計	21	27	42	70	86	111	80	6	1	444

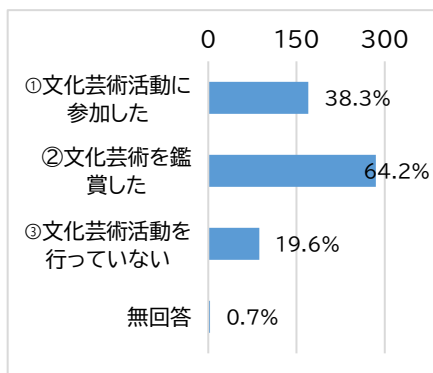
問4 文化芸術活動に参加しやすいまちにするために、大切だと思うことは何ですか。(3つ以内選択)

- ・無回答3人を除く441人が回答。
- ・最も多い回答が「①市民の鑑賞、参加及び創造の機会の充実」278人(62.6%)、次いで「②子ども及び若者の文化芸術活動の充実」181人(40.8%)となっている。



問5 この1年間で文化芸術活動を行いましたか。(複数選択可)

- ・無回答3人を除く441人が回答。総合して全体の7割以上が、文化芸術活動への参加や鑑賞をしている。
- ・「①文化芸術活動に参加した」と回答した方が170人(38.3%)、「②文化芸術を鑑賞した」と回答した方が285人(64.2%)、「③文化芸術活動を行っていない」と回答した方が87人(19.6%)となっている。
- ・また、回答した方のうち参加と鑑賞の両方を選択した方は101人(22.7%)となっている。

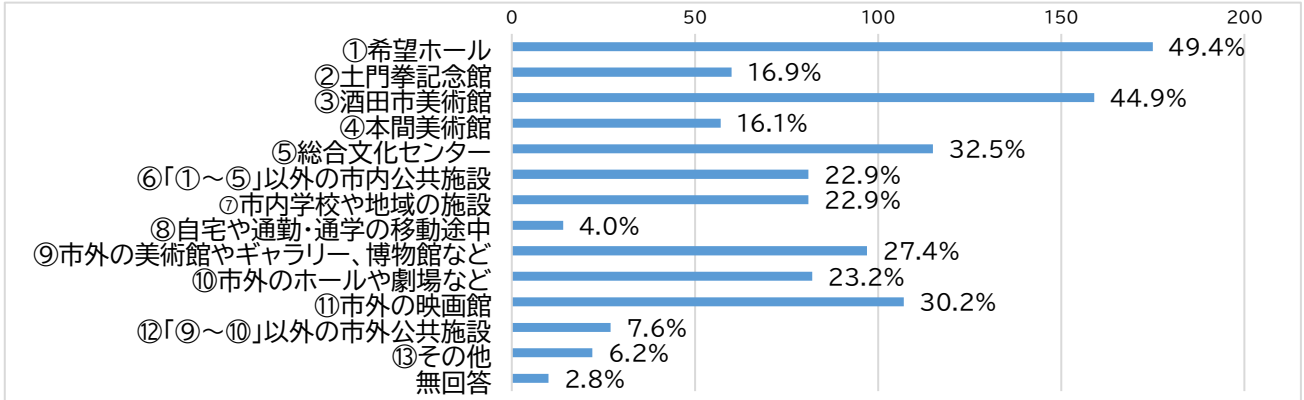


年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	総計
①文化芸術活動に参加した	3	4	10	7	12	17	15	1	—	69
②文化芸術を鑑賞した	1	15	19	32	50	41	23	2	1	184
①参加と②鑑賞の両方を行った	8	3	7	15	10	28	27	3	—	101
③文化芸術活動を行っていない	9	4	6	16	14	24	14	—	—	87
無回答	—	1	—	—	—	1	1	—	—	3
総計	21	27	42	70	86	111	80	6	1	444

▶「①文化芸術活動に参加した」及び「②文化芸術を鑑賞した」と回答した方…どこで文化芸術活動を行いましたか。(複数選択可)

・「①文化芸術活動に参加した」及び「②文化芸術を鑑賞した」と回答した方のうち、無回答10人を除く344人が回答。

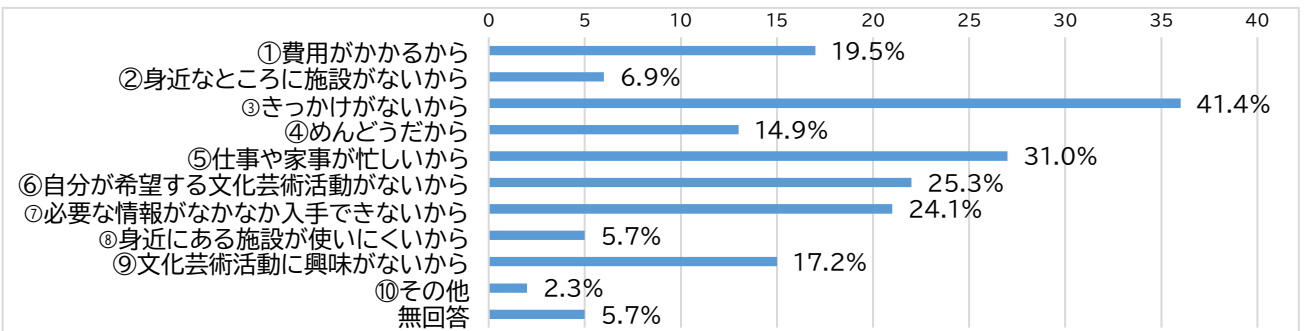
・最も多い回答が「①希望ホール」175人(49.4%)、次いで「③酒田市美術館」159人(44.9%)となっている。



▶「③文化芸術活動を行っていない」と回答した方…文化芸術活動をしていない理由は何ですか。(複数選択可)

・「③文化芸術活動を行っていない」と回答した方のうち、無回答5人を除く83人が回答

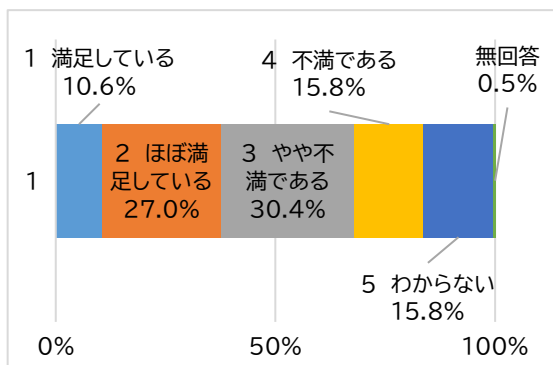
・最も多い回答が「③きっかけがないから」36人(41.4%)、次いで「⑤仕事や家事が忙しいから」27人(31.0%)となっている。



問6 酒田市の文化芸術活動の現状に満足していますか。(N=444)

・無回答2人を除く442人が回答「満足している・ほぼ満足している」と回答した方が167人(37.6%)、「やや不満である・不満である」と回答した方が205人(46.2%)、「わからない」と回答した方が70人(15.8%)

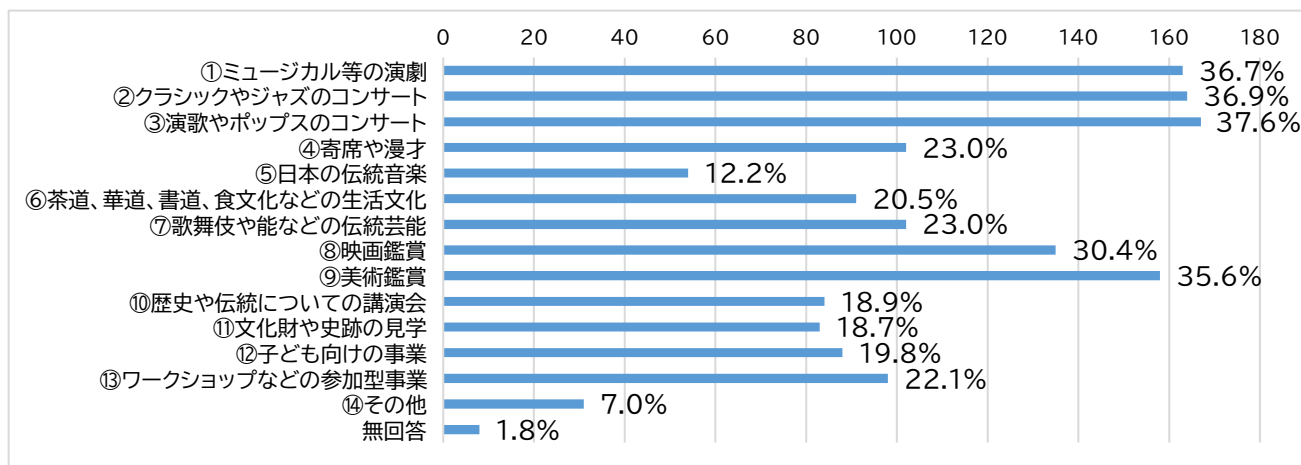
・不満と感じている理由については、「希望する企画が少ない」「情報発信や周知が弱い」「施設の利用しづらさ」「行政の方針・支援への不満」などが挙げられた。



年代	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	不明	総計
1 満足している	7	6	4	9	11	7	2	1	—	47
2 ほぼ満足している	7	6	13	20	20	24	26	4	—	120
3 やや不満である	1	8	14	16	31	38	25	1	1	135
4 不満である	—	1	4	14	14	25	12	—	—	70
5 わからない	6	6	7	11	10	16	14	—	—	70
無回答	—	—	—	—	—	1	1	—	—	2
総計	21	27	42	70	86	111	80	6	1	444

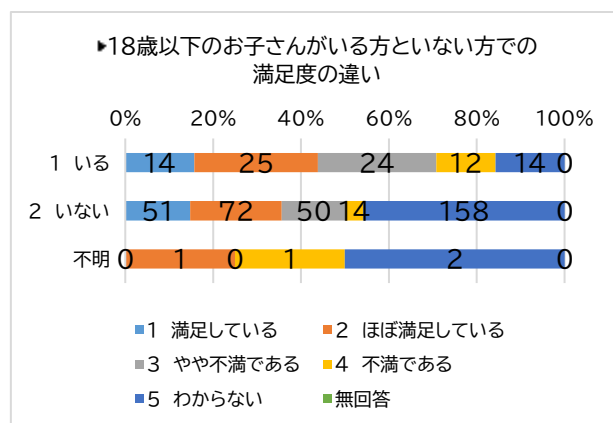
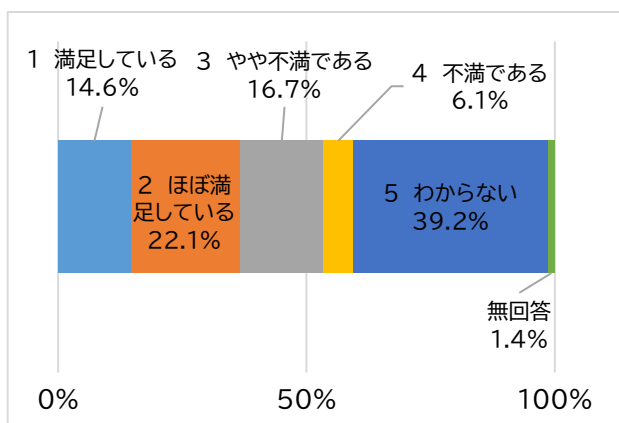
問7 どのような事業(文化芸術活動)をご希望ですか。(複数選択可)

- ・無回答8人を除く436人が回答。
- ・最も多い回答は、10代以下が「⑧映画鑑賞」、20代が「③演歌やポップスのコンサート」、30代・40代が「⑨美術鑑賞」、50代が「①ミュージカル等の演劇」、60代・70代・80代が「②クラシックやジャズのコンサート」となっている。



問8 酒田市において、子どもたちが文化芸術に触れる機会の提供に満足していますか(学校等での活動も含む)。(N=444)

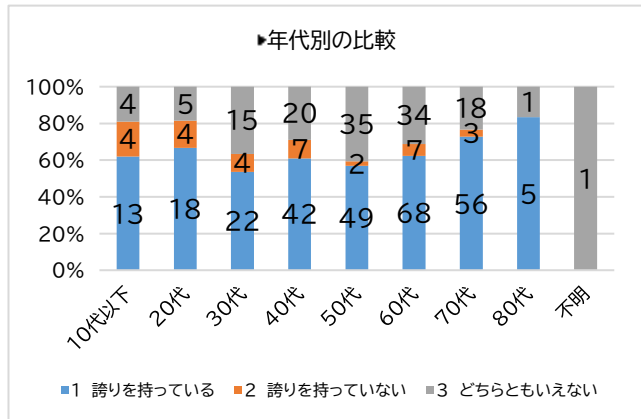
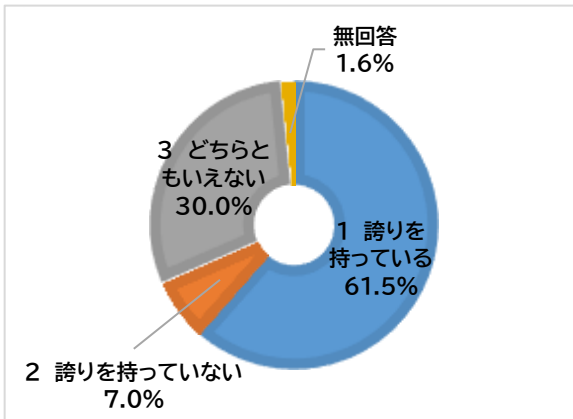
- ・無回答 6 人を除く438人が回答。
- ・「満足している・ほぼ満足している」と回答した方が163人(36.7%)、「やや不満である・不満である」と回答した方が101人(22.7%)、「わからない」と回答した方が174人(39.2%)
- ・不満に感じている理由については、「体験や鑑賞の機会が少ない」「本物(プロ)に触れる機会が少ない」「情報不足」「家庭や地域での体験格差」などが挙げられた。



3. 文化資源について

問9 酒田市の文化資源に誇りを持っていますか。(N=444)

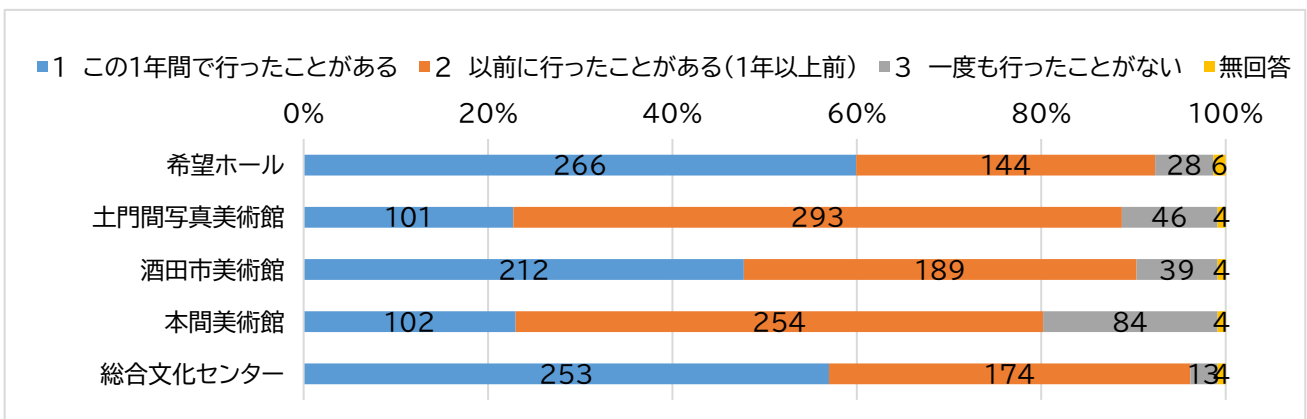
- ・無回答7人を除く437人が回答。
- ・「誇りを持っている」と回答した方が273人(61.5%)、「誇りを持っていない」と回答した方が31人(7.0%)、「どちらともいえない」と回答した方が133人(30.0%)



4. 文化施設(5施設)について

問10～問11 文化施設(5施設)に訪れたことがありますか。(N=444)

- ・「この一年間で行ったことがある」施設としては、希望ホールが最も多く266人(59.9%)となっている。
- ・「以前行ったことがある」施設としては、土門拳記念館が最も多く293人(66.0%)となっている。
- ・「一度も行っていない」施設としては、本間美術館が最も多く84人(18.9%)となっている。

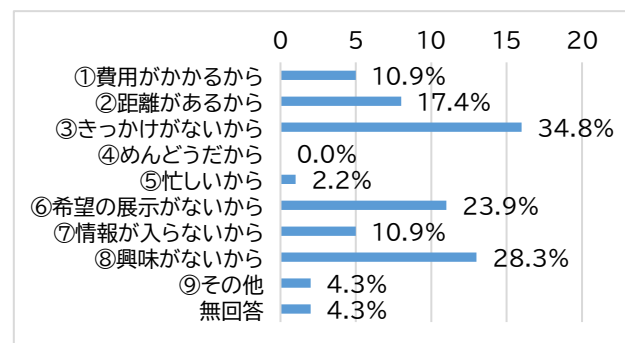
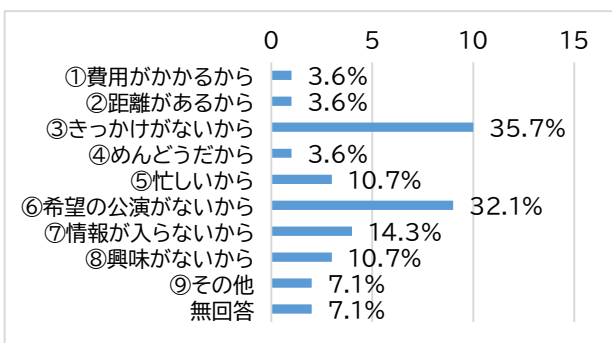


▶各設問で「3 一度も行っていない」と回答した方…一度も訪れたことがない理由は何ですか。(複数回答可)

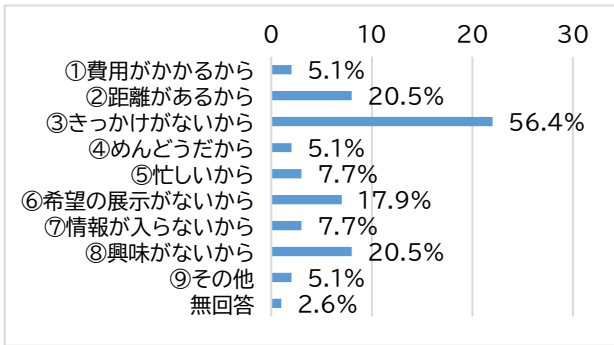
・「③きっかけがないから」という理由が、5施設に共通して最も多い回答となっている。

▼希望ホール:無回答2人を除く26人が回答

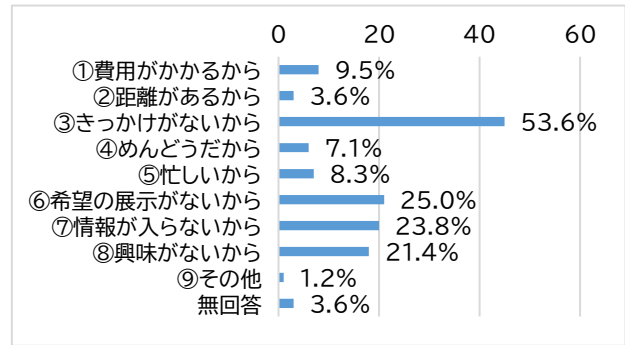
▼土門拳記念館:無回答2人を除く44人が回答



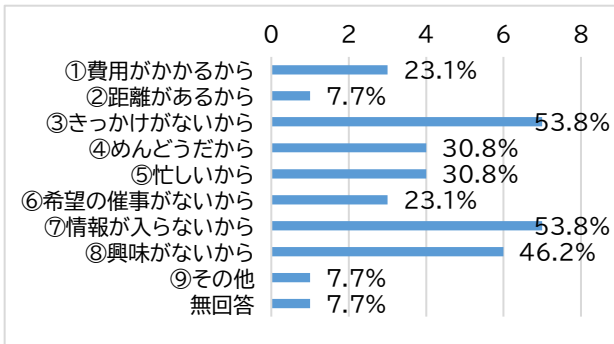
▼酒田市美術館:無回答1人を除く38人が回答



▼本間美術館:無回答3人を除く81人が回答



▼総合文化センター:無回答1人を除く12人が回答

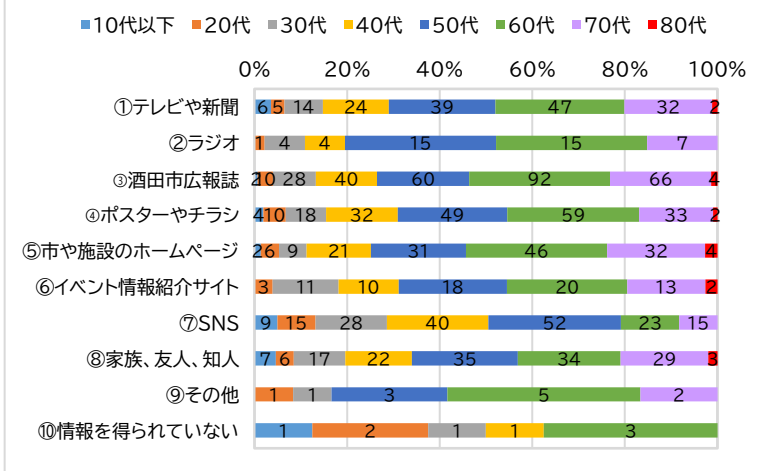


5. 文化芸術に関する情報収集について

問15 普段、どのような媒体から文化芸術に関する情報を得ていますか。(複数選択可)

- ・無回答 11 人を除く433人が回答。
- ・最も多い回答は、10 代以下・20 代が「⑦SNS」、30代・40 代が同率で「③酒田市広報誌」と「⑦SNS」、50代～70代が「③酒田市広報誌」、80代が同率で「③酒田市広報誌」と「⑤市や施設のホームページ」となっている。

▶回答ごとの年代比率



	10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	全体
①	6	5	14	24	39	47	32	2	169
②	0	1	4	4	15	15	7	0	46
③	2	10	28	40	60	92	66	4	302
④	4	10	18	32	49	59	33	2	207
⑤	2	6	9	21	31	46	32	4	151
⑥	0	3	11	10	18	20	13	2	77
⑦	9	15	28	40	52	23	15	0	182
⑧	7	6	17	22	35	34	29	3	153
⑨	0	1	1	0	3	5	2	0	12
⑩	1	2	1	1	0	3	0	0	8

1 現状

- ・鳥海八幡中と遊佐中は、部員減少に伴い、今年度より遊佐町のクラブ(YUZU)に加入し活動している。令和8年度からは地元吹奏楽団の協力を受けられる見込み。
- ・酒田一中は外部指導者による指導を試験的にやってみた。来年度はクラブに登録予定。
- ・ほかの学校については、顧問が指導。一部外部指導者が入っているところもある。部員数が確保できているところに関しては、他校との合同チームで活動する必要性がない状況。次年度以降は、合同チームでの活動が開始される予定。

<令和7年度の酒田市直7中学校の部活動数(集計)>

総数	運動部(準部)	文化部
101部	81部(内、準部15)	20部(休日活動9)
地域展開した部数	70部(内、準部15)/81	2部/9
展開率	86.4%	22.2%
全体展開率	80.0%(72/90)	

2 課題

- ・外部指導者の確保が難しいため、顧問が兼業届を出して指導しなければならない現状。
- ・楽器の指導は出来ても指揮が出来る人となるとかなり限定されるため、確保が難しい状況。
- ・今後外部展開するうえで、学校開錠等セキュリティ等のハード的な課題、楽器の保管場所等の課題がある。
- ・部員数が減少し、単独校での活動が出来なくなったタイミングで他校との合同バンド等の可能性がでてくる。
- ・地域のクラブは、部活動のコピーをつくるということではないため、既存の部活の考え方をそのまま引き継いでやることは困難。視点を変更するなど、価値観の変容も想定する必要がある。

例)コンクールへの参加についてなど



3 審議会としての視点

●視点1 生涯学習としての取り組み

・学校教育外の取組として位置づけ、広く生涯学習の領域に該当するものと捉えること。

●視点2 各計画における子供の育成に関する方針に基づいた取り組み

・各個別計画(スポーツ・生涯学習・文化芸術)の中で、どのように子どもたちの育成に取り組んでいくかという視点が必要。
・地域における子どもたちに対する指導(育成)の在り方、予算面の確保とともに、子どもを育む視点、部活動をどう支援するかが課題。

●視点3 体験格差解消の課題に対する対応

・令和7年度の文化芸術推進審議会から出された答申にある、時間的・経済的・身体的等の事情による格差解消策の一環として、市では美術館を授業で活用するという「スクールプログラム」や市内小学校への「アウトリーチ」などを実施している。
・格差を縮小するため、部活動の地域移行についても、何をどのように関わっていけばよいのか、行政の対応についても検討する必要がある。



4 酒田市の基本方針(案)

■ 地域クラブ活動について

(1) 基本理念

① 地域クラブの目的 ※市の計画に基づくもの

- 学校部活動の教育的意義の継承・発展 ⇒ 子供たちの心身の健全育成
- 新たなスポーツ・文化芸術環境の創造 ⇒ 生涯学習社会の実現

② 方向性

- 「各中学校区」や「競技種目」を基本に、地域展開する。
- 実情に応じて、「整理・統合」を図る。 ※部活のコピーではない。

(2) 地域クラブ活動の在り方

① 対象者

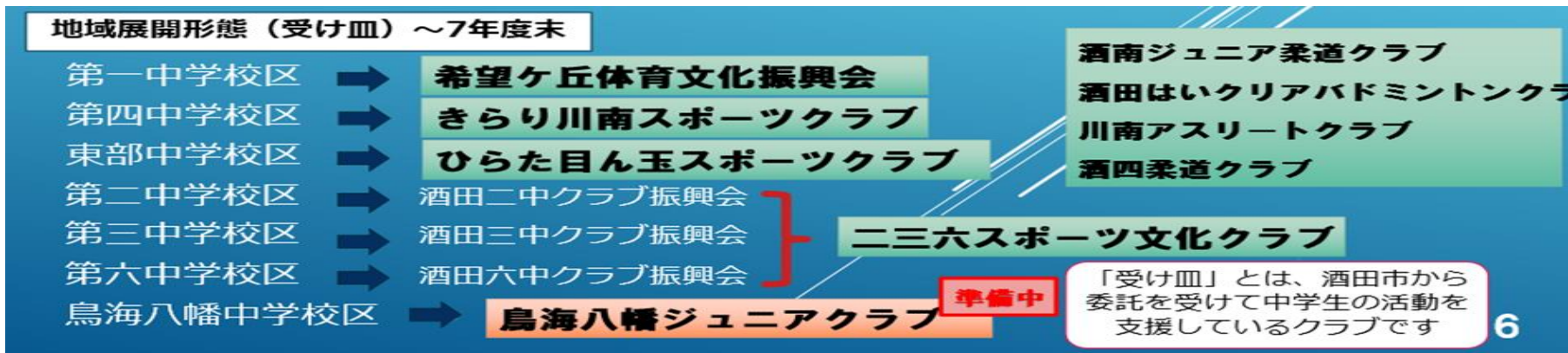
- ・ 学校部活動への所属に関わらず、希望するすべての生徒
- ・ 酒田市立中学校の生徒、及び近隣市町村在住の生徒



② 位置付け

- **学校教育外**の活動
- 「酒田市スポーツ推進計画」「酒田市文化芸術推進計画」「酒田市生涯学習推進計画」の方針のもとに、**公的な性質**を有する活動
- 「酒田市地域クラブ認定制度」により、要件を満たした場合「認定地域クラブ」となる。

※「認定地域クラブ」は、中学生の文化活動の受け皿としての役割を果たす。指導者の受け皿としての機能も期待されている。



(3) 地域移行に係る今後のスケジュール

		改革実行期間 前期			改革実行期間 後期		
		令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
平日	学校部活動	継続実施					
	地域クラブ活動	検討			試行		
休日	学校部活動	暫定					
	地域クラブ活動	展開・体制整備					

中間評価





令和7年9月19日

酒田市長 矢口 明子 様

酒田市文化芸術推進審議会
会長 中川 幾郎



令和8年度に向けた文化芸術に関する施策について（答申）

令和7年6月27日付け文発第181号で酒田市から諮問のありました標記の件につきまして、当審議会で審議を行った結果、意見が集約されましたので、別添のとおり答申します。

答 申 書

1 体験格差の解消や居場所づくりを目指した事業を展開すること

社会包摂の視点に立った人材育成・開発の方針のもと、経済的、時間的、健康的、その他社会的事情により生じる「体験格差」の解消や、多世代が交流できる「居場所」・「つながり」づくりを目指し、本市における実態を把握した上で事業を展開すること。

また、市役所と地域、学校、文化芸術等の団体・組織が目的を共有し、各組織の強みを生かした相互の協力体制、事業の連携を図ると共に、社会のあらゆる人々が自分らしく自立した生活を送るために必要な知識・スキル・自信を育むための文化芸術活動の支援や機会提供を目的とした育成事業に注力すること。

2 文化芸術分野における市民の自主的・自発的活動に対する支援事業の効果を高めること

令和6年度に新設された「アートプロジェクト活動支援補助金」は、市民の自由な発想と自発的な意思の掘り起こしを目的とし、文化芸術推進計画の重点的視点である社会包摂と育成の視点を取り入れた、文化芸術活動が市民の手によって創造されるための画期的な事業であるが、より有効な補助金となるように、補助要件や補助内容、制度周知方法、審査方法等について再点検を行うこと。

3 第2期酒田市文化芸術推進計画の策定に向けた検証を進めること

第1期酒田市文化芸術推進計画が令和9年度に満了することに伴い、第2期に向けて評価指標の見直しを行うほか、第1期の成果及び課題の整理を行うこと。

また、地域社会と文化芸術分野をつなぐ「市民アートコーディネーター」を発掘・育成する事業を継続することともに、その事業を主体となって推進し育成・コーディネートできる専門的人材を確保し、そうした人材が中心となる中間支援組織または機能の実現を目指すこと。

令和7年度答申に基づく令和8年度社会包摂関連事業の概要

❖ 答申1 体験格差の解消や居場所づくりを目指した事業を展開すること

社会包摂の視点に立った人材育成・開発の方針のもと、経済的、時間的、健康的、その他社会的事情により生じる「体験格差」の解消や、多世代が交流できる「居場所」・「つながり」づくりを目指し、本市における実態を把握した上で事業を展開すること。

また、市役所と地域、学校、文化芸術等の団体・組織が目的を共有し、各組織の強みを生かした相互の協力体制、事業の連携を図ると共に、社会のあらゆる人々が自分らしく自立した生活を送るために必要な知識・スキル・自信を育むための文化芸術活動の支援や機会提供を目的とした育成事業に注力すること

(1) 地域の居場所芸術派遣事業（予算上4か所40万円計上）【新規】

- ・ 酒田市文化芸術推進プロジェクト会議の「芸術家・地域ふれあい事業」の一環として実施。
- ・ 小学校アウトリーチ事業の外に、新たに「地域の居場所芸術派遣事業」として、地域食堂、ひとり親世帯の会、病院等に、芸術活動をアウトリーチする取り組み。
- ・ 事業の委託先を酒田市芸術文化協会とする方向で調整中。
- ・ 学童保育所等においては、芸術文化協会や一般の音楽団体や美術団体が既に自主事業として実施している例も見られるため、自主活動を阻害しない分野、事業内容で実施する。
- ・ 予算上は派遣先を4か所程度想定で40万円計上。

■ 「芸術家・地域ふれあい事業」の学校アウトリーチの例



▲作曲家・ピアニストの小林真人さんのクラスコンサート。



▲ダンサーの菊地将晃さん、秦玉美さんによるダンスアウトリーチ。

(2) 市美術館、土門拳記念館における対話型鑑賞プログラムによる鑑賞機会の提供

① 「鑑賞から体験へ」新しい施設価値を提案【新規】【検討開始】

- ・ スクールプログラムとして小学生・中学生に対して行っている対話型鑑賞プログラムを大人の市民向けにも行うことで、自己理解や表現力を高める体験活動として提案。
- ・ 美術館の会議室をアトリエやワークショップ向けスペースとして活用できるようにする改修を行い、「鑑賞から体験へ」市民に対し新しい施設価値を提案していく。（改修完了後の再開は令和9年8月予定）



▲市美術館でのスクールプログラム。指導は絵画サークルの「石の会」に依頼。



▲松山文化伝承館でのスクールプログラム。指導は伝承館の職員。

② 美術館運営に参画する人材の育成【新規】【検討開始】

- ・ 市民向けに対話型鑑賞プログラムの説明員となるため研修機会を設け、美術館に関わる市民を育成する。
- ・ 対話型鑑賞プログラムへの参加者の中から、ファシリテーターとして期待できる人材を発掘し、個人の説明員として登録してもらい、美術館が行う事業の運営に対して参画できる仕組みを作っていく。

(3) 子育て世代・現役世代へのアプローチ

① 大人向けアウトリーチ【新規】

- ・ アンケート結果で多く見られる「鑑賞や体験のきっかけがない」という声に対応するため、学校アウトリーチの大人版のようなシステムを念頭に、民間の事業所やPTA活動等に対し直接アーティストを招聘する事業を実施。
- ・ 会社等で働く子育て世代・現役世代に直接文化芸術を届けることで、新たな学びや体験をもたらし、家庭生活や子育てへのフィードバックに繋げていく。

② 乳幼児向けコンサート【拡充】

- ・ 希望ホールの公演に参加することが難しい乳幼児とその保護者をターゲットに、7年度「芸術家・地域ふれあい事業」の一環で新規実施（10/19に1日2コマ実施）。
- ・ 8年度は開催回数を増やして実施する。

令和7年度答申に基づく令和8年度社会包摂関連事業の概要

(4) その他

① 関係他課事業との連携【新規】【仕組づくり】

- 市役所内の関係課担当者会議を開催し、福祉部門や子育て部門、学校、社会教育部門の別事業との連携を図っていく。

担当課	関連外部団体等	連携分野
共生社会課	庄内地区演劇協議会	LGBTQ、在留外国人
まちづくり推進課	コミュニティ振興会等	子どもの居場所づくり
こども未来課	地域食堂、ひとり親世帯の会	子どもの居場所づくり
保育こども園課	学童保育所	子どもの居場所づくり
地域福祉課	社会福祉協議会	障がい者アート展ほか
学校教育課	小中学校・高校大学等	学校アウトリーチほか
社会教育課	中央図書館（ミライニ）	未就学児アートスタートほか

④ 制度周知方法等【拡充】

- 一次募集の受付期間：4月1日（水）～5月7日（木）（前年比5日間増）。
- 一次募集の結果を受け、予算の範囲内で二次募集を実施。
- 周知方法については、募集の都度、市広報、市HP、LINE・SNS、公共施設へのポスター掲示等により広報を行う。

⑤ 審査方法【継続】

- 申請される事業内容が条例・計画の趣旨に沿うもので、目的達成に貢献するものであるよう、事業採択の審査は「審査会による採択」を継続。

⑥ 審議会委員意見への対策

- 審議会委員の意見にあった、「渡し切りの助成金」という形のスタートアップ資金の制度は、行政主体の制度としては作りにくい。
- 別団体が主体となり、企業寄付金やクラウドファンディングによる資金を元手に別の支援制度として作れないか検討を継続する。

❖答申2 文化芸術分野における市民の自主的・自発的活動に対する支援事業の効果高めること

令和6年度に新設された「アートプロジェクト活動支援補助金」は、市民の自由な発想と自発的な意思の掘り起こしを目的とし、文化芸術推進計画の重点的視点である社会包摂と育成の視点を取り入れた、文化芸術活動が市民の手によって創造されるための画期的な事業であるが、より有効な補助金となるように、補助要件や補助内容、制度周知方法、審査方法等について再点検を行うこと。

① 補助要件：補助対象者に「個人」を追加【拡充】

- 趣味レベルの活動に対する補助金交付とならないよう、補助対象を法人・団体等に制限してきたが、個人に拡大。

② 補助要件：対象経費に「人件費」を追加【拡充】

- 県や市の他制度に倣い、補助対象額の3割までの制限付きで人件費を認める運用とする。
- 補助金の活用増を図ることについて、プロジェクト会議での意見として、制度周知・広報の時期と期間、媒体、ターゲット（情報の出し先）について吟味すべきといった意見があり、この点を重点的に改善していく考えで、現在事務レベルで改善手法を検討中。

③ 予算額を150万円に拡大（前年比50万円増）【拡充】

- 文化政策の基本理念に沿った民間活動の推進、公共から民間への転換・移譲を進める。

❖答申3 第2期酒田市文化芸術推進計画の策定に向けた検証を進めること

第1期酒田市文化芸術推進計画が令和9年度に満了することに伴い、第2期に向けて評価指標の見直しを行うほか、第1期の成果及び課題の整理を行うこと。

また、地域社会と文化芸術分野をつなぐ「市民アートコーディネーター」を発掘・育成する事業を継続することともに、その事業を主体となって推進し育成・コーディネートできる専門的人材を確保し、そうした人材が中心となる中間支援組織または機能の実現を目指すこと。

(1) 審議会開催時期の見直し【仕組づくり】

- 審議会開催回数については例年3回分を見込んで予算計上。
- 現在は2・3月に事業の途中経過説明と翌年度予算要求の説明、6月に前年度事業報告と翌年度事業の諮問、9月に答申という流れだが、2・3月と6月の議題で行う事業報告はほとんど実績内容が同じであるため、委員による議論の時間を確保する意味から、今後の審議会運営については次頁の表のとおり進めていく。

令和7年度答申に基づく令和8年度社会包摂関連事業の概要

開催時期	主な協議内容
2月	<p>●答申に基づく翌年度事業案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実質的に答申後1回目の開催をスタートとして捉え、新年度事業案が答申に沿った内容であるか確認・意見をいただく。 ・1月実施のアンケート調査の結果及び分析報告。
6月	<p>●諮問、前年度事業実績評価、翌年度に向けた答申案（アウトライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他課開催事業も含め、事業カードによる詳細報告。 ・それを踏まえた翌年度事業について諮問し、答申案をまとめる。 ・答申案の詳細修正は会長・副会長一任。 ・プロジェクト会議委員、その他関係者も交えた研修会開催。
9・10月	<p>●答申、当年度中間報告、1期計画の課題抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまで会長・副会長による答申のみであったが、審議会開催と合わせて答申を手交。 ・当年度事業の中間報告を行う。 ・2期計画に向け、1期計画の課題抽出等報告し、意見を行う。

(2) 評価指標の見直し【検討開始】

- ・文化芸術推進計画に定めている評価指標（計画 第4章第4節 P32・別紙資料●参照）の見直しを行い、2期計画を待たず令和8年度実態調査（アンケート）から、新しい評価指標と調査手法による調査を行う。
- ・評価指標案と調査実施案は、6月審議会において審議会に提案し意見を伺う。

(3) 市民アートコーディネーター発掘・育成

① 東京藝大連携事業【継続】

- ・東京藝大連携事業を通じた人材発掘を継続。
- ・主に市街地での活動で、事業参加者の中から継続的に関わる人材を育て、いずれ自主的に事業を運営できるよう支援する形。

② 既存の地域活動からの人材発掘（①を補完、行政的アプローチ）【新規】【仕組みづくり】

- ・市内外で、文化芸術活動を通じて地域の課題解決につなげる活動を既に行っている方々を集め、意見交換する場を設け、人材をつなぎ、コネクションを広げる。
- ・市の地域コーディネーター、コミュニティセンターや子育て支援センター等、既存の団体等で活動する人材に働きかけ、地域に芸術活動をつなぐ研修機会を設ける。

(4) 中間支援組織・活動場所等の検討【新規】【仕組みづくり】

① 中間支援組織・機能

- ・市民による自発的かつ自立的な設立機運が無い中で、他市の成功事例や手法から行政主導で当てはめても、実現しない、或いは経済的に自立、事業継続できない結果になる可能性が高い。
- ・また、個人または組織として経済的な裏付け、確実な資金調達力が無い中では、法人設立等は難しいと考える。
（本市の過去の事例を教訓：外部人材のアートコーディネーター配置、内郷アートプレイセンター構想の頓挫等）



- ◎ 民間の既存団体・人材の活用・協働を柱に検討を進める
- ◎ 地域性にあった組織・場所づくり

② 活動場所等▶ 既存の文化施設・民間施設を活用【検討開始】

- ・市民アートコーディネーターや市民、芸術家が自由に集い、様々な情報を共有し更新できる場所、自由な創作・表現活動の場所や居場所となり得る、いわゆる「文化的コモンズ」（共有地・入会地のような場所）のような場所をどう求めるか。

（文化施設）

- ・本市の美術館、土門拳記念館について、障がい者、高齢者、経済的に困難な状況にある人々など、これまで文化施設へのアクセスが制限されていた層にも開かれた場所となることを目指す。
- ・対話性、柔軟性、双方向性、参加型の要素を高めた施設への転換を図り、市民が施設の展示内容検討やイベント運営に参加できる機会を提供することで、施設の社会的な役割を拡張（役割を兼ねる）し、来館者の多様性を高めていく。

（民間施設）

- ・民間では経済活動の延長で位置づけられるシェアオフィスと共有空間を含む交流拠点、文化的イベントを行う画廊等において、「文化的コモンズ」のような理念を加えることができるか、サウンディング調査（対話型市場調査）等の手法により実現可能性を探る。
- ・空き家・空き店舗活用について関係課との情報共有を進めていく。
- ・現在、本市隣接自治体で活動している団体の事例も参考に、連携しながら新しい居場所づくりの形を探っていく。（事例：遊佐町・おでこベース）

令和7年度答申に基づく令和8年度社会包摂関連事業の概要

課題分野別の事業配分表

